

第 2 3 5 回

地震予知連絡会資料

2022 年 5 月 16 日



京都大学防災研究所

第235回地震予知連絡会提出資料

目 次

I. 能登半島の地殻変動（2022年5月）（4）	・・・ 3
--------------------------	-------

能登半島の地殻変動（2022年5月）

京都大学防災研究所
金沢大学理工研究域

能登半島では引き続き地震活動が活発な状態が続いているが、京都大学防災研究所と金沢大学理工研究域が2021年9月に設置した臨時GNSS連続観測点(SZOT, SZMS, SZHK, NTYD)と周辺のGEONET観測点における地殻変動の観測結果を報告する。最近3ヶ月の変位(図1)を見ると、現在でも能登半島先端部における膨張及び隆起はわずかに続いているように見えるが、時系列(図2)からわかるように、2022年に入ってから、それ以前に比べて変動速度がかなり鈍化している。

なお、本資料では、京都大学防災研究所において米国ジェット推進研究所(JPL)の精密暦及び速報暦を用いてGipsyX Ver1.4の精密単独測位法(PPP)により推定した日座標値を用いた。

謝辞: 国土地理院のGNSSデータ、気象庁一元化震源データを使用させていただきました。観測点の設置にあたり、珠洲市教育委員会、珠洲市役所企画財政課及び能登町教育委員会にお世話になりました。

(文責 西村)

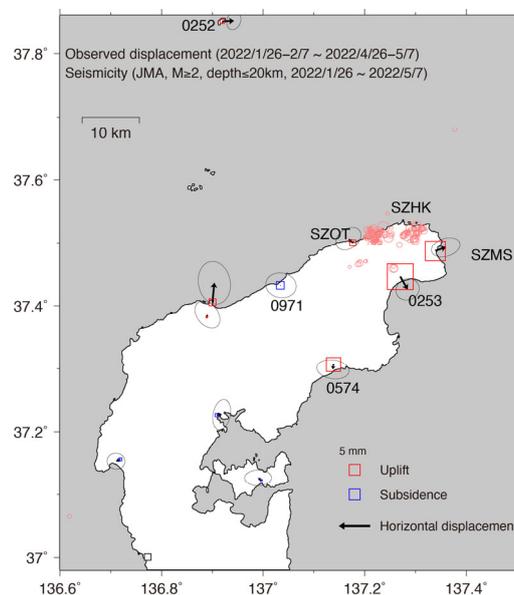


図1 能登半島のGNSS観測点における各期間の変動ベクトル図。赤青の四角は上下変動を表す。SZOT、SZMSは京都大学、SZHKは金沢大学、それ以外は国土地理院による観測点。赤丸は図中に示した各期間の気象庁一元化震源(M \geq 2、深さ \leq 20km)。(a) 2022年1月26日-2月7日から2022年4月26日-5月7日までの変位。

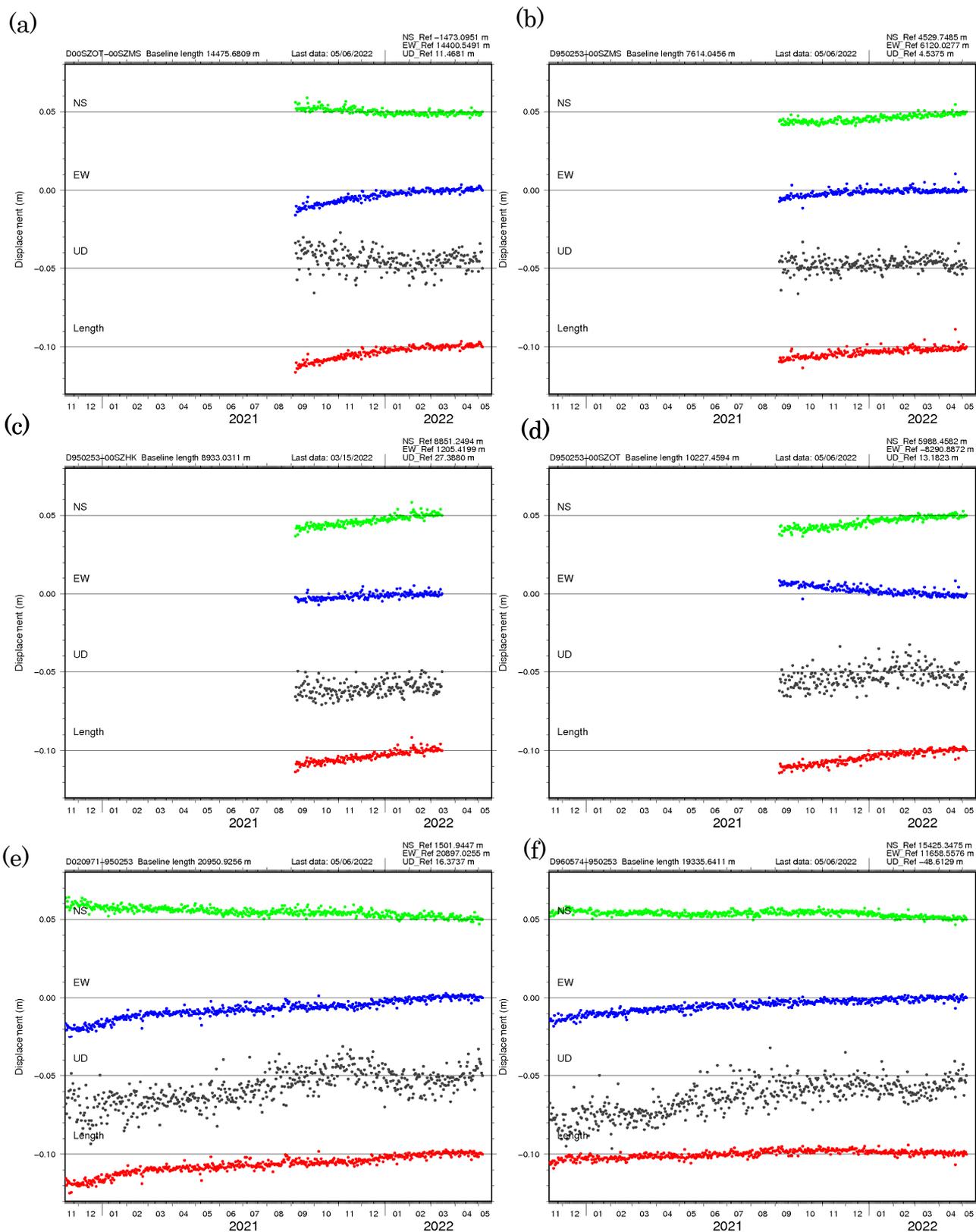


図2 各基線における日座標値変化。速報暦に基づく日座標値を使用。各観測点の位置は図1参照。
 (a)SZOT-SZMS。(b)0253-SZMS。(c)0253-SZHK。SZHKは現地収録方式のため、3月16日以降のデータはまだ回収されていない。(d)0253-SZOT。(e)0971-0253。(f)0574-0253。